

杉コレクション2013 in 延岡

のべおか賞・グランプリ作品

穴があつたら入りたい

有馬晋平・大分県(造形作家)



模型審査通過の知らせと同時に、作品を自ら作りたいと申し出た。快く了承を得て早速作品に見合う大きな杉の木を探し始めた。しかし、直径1mを超えるような原木はなかなか見つからなかった。材木商の知人から大木の情報を得て、熊本の原木市場に駆けつけると、そこに並んでいたのは、宮崎県五ヶ瀬町から切り出された大きな杉の木だった。近隣の延岡で行われる杉コレクションにはびつたりだと即決して、自分の工房に運び込んでもらった。

原木を削り始めて、やがて外形は姿を現したが、この作品の最大の特徴である大きな穴を空けるのには、思案と困難を要した。十分の一模型制作の段階で6個ほどの模型を作り、穴の位置や大きさを試作した。実際の作品に穴をあける際は、再び形や木目、木の特徴を慎重に考慮した。穴を掘り進めるのは、予想以上に困難であった。時には自分の上半身をすっぽり穴の中に埋め、中に電気を灯して少しずつ掘り進めた。身体中が筋肉痛に襲われたのは言うまでもない。作品は、杉コレクション審査数日前にやっとの思いで完成に至った。

審査当日、設置された作品に子どもから



大人ですすっぽり入り戯れる人々を眺めると、作品を作った充実感がひしひしと湧いてきた。結果として作品は、グランプリと延岡市民賞という大変な名誉を授かった。

作品制作にあたっては、沢山の方々のご協力をいただきました。さらには、審査当日ご支援くださった延岡市民の皆様や関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。延岡市民賞の伊勢海老は絶品でした！

杉コレクション2013 in 延岡

シーガイア賞作品

五ヶ瀬川の鮎釣り・遊び心から

長友弘幸・宮崎県(木工芸家)

私が杉コレクションに参加を始めて、10年近くになる。3年前、西都市で開催された時以来の入選で、あの時は口蹄疫の頃で作品に、追悼の思いを込めて製作したのを思い出します。

2年間、入選できず、自分のデザインの未熟さを感じていた。おかげで、デザインの重要性を感じて工業技術センターのデザイン講習会にも多く参加してきた。

私の仕事は、建築工芸、銘木、床柱、飾り柱を、削り、磨き上げればいいのだが近年、建築様式の変化で和室の減少、工芸品を飾る場所もない家が多くなった。洋式の家屋になると杉の柱の大半は、壁に隠れてしまう、いわば脇役になってきた。

この「杉コレクション」は、杉が主役、主催者



の森林林業協会の理事長は学生時代、杉の品種別、苗木作り、など教わった、林業の恩師にあたる。先生に、見て貰おうとの、思いもあって、3年目に入選できたのは良かった。

今回の製作にあたっては、西都の時のグランプリ作家、有馬さんが入選しているのを意識して、杉の太木で作ったかったが、あえて、山林、木材市場を見て廻り、厚板の合版で製作した。乾燥期間もなく、強度を考えボルトを入れて、太めのデザイン(笹舟)になってしまった。

大会当日、会場に運び込んだ時、主役の杉を並べた、このイベントに感謝した。デザインを加えた杉、私の作品が、シーガイア賞まで頂いてこの上ない喜びです。

杉コレクション2013 in 延岡

内田洋行賞

ネハンゴツコ

佐梁 健・東京都(建築設計士)

今年のテーマは遊具です。「子供たちが楽しく愉快に遊ぶ」と言うイメージの呪縛から逃れられず、締め切り直前までありきたりの案しか思いつきませんでした。

自分でも納得できず応募を半ばあきらめかけた時、今まで考えていたすべての前提の逆説から生まれたのがこのデザインです。

「ネハンゴツコ」とそれらしいネーミングをしても、遊具と棺桶はどう考えても結びつきません。プレゼンテーションの説明はちょっと

わざとらしくなかったかもしれませんが、それでも、審査員の先生が入ってくださり、私から持ってきた「おりん」をチーンと鳴らした時、どっと笑いが起こりました。

この瞬間「ネハンゴツコ」は、間違いなく「遊具」に変身してくれたのです。デザインにおけるパラダイムシフト！

杉コレには、毎年新しい発見があります。「内田洋行賞」という素晴らしい賞までいただき、本当にありがとうございます。

